

ESG債 × ESG投資

持続可能な社会の実現に向けて

独立行政法人日本学生支援機構

SDGsに資する 教育関連のESG債

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)は、香川大学を含めた全国の大学生に対して奨学金の貸与を実施していますが、その資金はソーシャルボンドとして、債券市場から調達されています。同機構の永山賀久理事長代理にその概要について聞きました。

ソーシャルボンド

JASSOの ソーシャルボンドの 特徴について

日本学生支援債券は、2018年9月以降、ソーシャルボンドとして発行されています。日本の社会的課題に対応したソーシャルボンドは、国内公募債としては初の事例でした。ソーシャルボンドで調達した資金は、有利息で貸与する第二種奨学金の在学中の財源に全額充当され、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」の達成に貢献します。教育関連のソーシャルボンドは国内でも稀少な存在となっています。ソーシャルボンドの発行にあたっては、フランスのESG評価機関であるVigeo Eirisからセカンダリオピニオンを取得しており、債券及び発行体レベルの評価を受けています。

投資家からの反響について

ソーシャルボンドとしての発行を開始して以降、有難いことに多くの投資表明を頂くことができました。当初は、ESG債の黎明期であり、金融機関等が中心となっていましたが、最近では、SDGsへの貢献の観点や、奨学金事業の趣旨にご賛同いただいた事業法人や学校法人の方々からも投資表明をいただくようになりました。ソーシャルボンドへの投資を通じて、JASSOの設置目的「次代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成」を支援し、「教育の機会均等」に貢献していきたいとの声を拝聴しています。

投資家へのメッセージ

グローバル化が進み、ICTやAIをはじめとする科学技術が急速に進歩するなかで社会は変容を続けており、高等教育も、それをとりまく状況も大きく変わりつつあります。さらに、昨年来の新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちが生きる世界の姿を一変させました。JASSOが支援している学生生活も未曾有の変化にさらされています。JASSOとしては、国および大学等の関係機関とも十分に連携しつつ、例年とは異なる緊急対応を行い、学生支援の体制を補強してきました。

新型コロナウイルス等の感染症や地球温暖化のような人類共通の問題から身近な地域社会の課題に至るまで、現在の諸問題に向き合い、より良い未来を作り上げていくためには、教育・研究等の知的活動の場が広く開かれ、誰もがアクセスできることが大切です。With/Afterコロナの社会において、学びの重要性がこれまで以上に増すことは確実であり、学生支援体制の一層の強化が必要であると考えます。

学びたいという意欲学ぼうとする意志を持つ人々が、ためらうことなく学びの道を選択し、安心して学業を継続できるように、JASSOは不断の努力を続けてまいります。皆様方におかれましては、JASSOの事業活動への一層のご理解をお願いするとともに、今後とも格別のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学生の方々へのメッセージ

JASSOでは、在学中の支援に加えて、地方創生にも取り組んでいます。具体的には、香川県では一定の条件を満たした場合、「大学生等かがわ定着促進基金」により返還額の一部を支援する取組みが実施されています。このように地方公共団体が奨学金の返還を支援する地方創生への取組みが全国に広まっています。また、4



理事長代理
永山 賀久 氏
ながやま よしひさ

四国化成工業株式会社

”独創力で、 一歩先行く提案“型企業へ

SDGsに貢献

四国化成工業は香川大学と関係が深く、共同研究の実施や地元密着型のまちづくりイベント、持続可能な地方分散型社会を実現するためのシンポジウム等を交えて地域に根ざした活動を展開しています。今回は、同社の田中代表取締役社長に、事業や環境、SDGsに係る取組みについてお聞きしました。

事業について

四国化成は1947年香川県丸亀市の地に、化学繊維レーヨンの中間原料メーカーとして創業しました。約75年の歴史は、生活をもっと便利に快適に、そして地球環境に貢献したい、そんな「純粋な情熱」で日々努力を重ねてきた先人達の、モノづくりへの思いや信念の歴史でもあります。その成果は、化学と建材という二つの異なる事業領域に結実し、今日では売上高500億円、営業利益率15%という企業に成長しました。

四国化成の存在は、日本国内のみならず世界で有数のシェアを有する製品を数多く持つ点で際立っています。皆さんがお使いのスマートフォンにも世界トップシェアの当社化学品が使われていますし、自動運転技術のさらなる進化や、5G第5世代移動通信システム(5G)の商用サービスの本格化にも、築き上げた化学の力で最新のソリューションを提供します。また、建材事業が手掛けるエクステリアにおいては、近年の台風などの自然災害の増加・大型化を背景に、お客さまからの風や雨に強い製品を求める声に当社はいち早く応え、高強度の製品群を強化しライオンナブ

を充実させるなど、人々の安心で安全な暮らしに貢献しています。

長期ビジョン 「Challenge 1000」について

四国化成グループは、新たなステージへの飛躍を目指し、2030年を見据えた長期ビジョン「Challenge 1000」を策定、昨年度よりビジョン達成に向け積極経営へと明確に舵を切りました。変わらぬ企業理念「独創力」の下、2030年にありたい姿として、「独創力で、一歩先行く提案型企業」を掲げ、独創的なアイデアで社会課題を解決し、世界の進歩をリードする企業となることを目指してまいります。また、良き企業市民として、顧客、従業員、株主、そして社会に貢献していくこととした「四方よし」を企業活動方針としています。お客さまには「一歩先の価値」を従業員には「挑戦と成長」を、株主の皆様には「より層の利益還元」を、そして社会には「より良い明日」をお届けすることにより、ステークホルダーの皆様にご貢献してまいります。さらに、レスポンスブルケアによる環境

保全に加え、さらなる社会課題の解決に向け、国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)の達成にも取り組んでいます。

環境やSDGsに 対する取り組み

四国化成グループは、各事業所から排出される温室効果ガス、エネルギーや水などの資源の使用量の削減、化学物質及び産業廃棄物が環境に与える負荷の継続的な低減により、環境保護及び地域住民の皆さまと従業員の安全健康の確保に貢献することを目指しています。2020年には、四国化成グループでの温室効果ガス削減に取り組むために、目標を見直しました。

また、当社の主要な事業の中には、すでにSDGsと深く関わりがあるものが多数あります。例えば、祖業の二硫化炭素は硫黄とメタンガスを原料として生産されます。どちらも原油からガソリンなどを精製する際に生み出される副生物であり、元来は産業廃棄物として処理されるものですが、そうしたものに当社独自の技術で新しい付加価値を加え、世の中に役立つ製品として販売することにより、地球環境の保全に貢



安全性に優れたアルミシステム塀「ArtWall」

献しています。さらに、企業活動方針「四方よし」のもと長期ビジョン「Challenge 1000」においてもSDGsへの貢献を一つの柱として掲げており、その環として、日本学生支援機構が発行するソーシャルボンドへの投資も行いました。ソーシャルボンドにより調達された資金は奨学金として、経済的な理由で修学が困難な学生に貸与されます。投資を通じてSDGsに貢献してまいります。



代表取締役社長 兼 C.E.O
田中 直人 氏
たなか なおと

企業プロフィール

- 商号：四国化成工業株式会社
 - 証券コード：4099(東証1部上場)
 - 創立：1947年10月10日
 - 本社所在地：香川県丸亀市
 - 資本金：68億67百万円
 - 従業員数：1,194名(連結)
 - 売上高：495億円(連結)
- <https://www.shikoku.co.jp>



船舶バラスト水処理装置向け薬剤「ネオクローラ マリン」

「奨学金返還支援」
による若者の地方定着

企業の奨学金返還支援
(代理返還への対応)

海外留学支援

トビタテ!
留学JAPAN
その経験が、あなたの未来。

月より企業による奨学金返還支援といった新たな取組みを始め、実施企業名等をホームページに公表しています。留学生支援事業では、9月に「JASSO 海外留学オンラインフェア2022」を開催する等、昨年度に続き新型コロナウイルス感染拡大の中で海外留学について最新情報を発信していきます。これからもJASSOは、学生の皆さんがどんなときでも安心して学ぶことができるよう必要なサービスを提供してまいります。